

SDGs/ESG対応への必要性

- 投資家のESG投資拡大、日本政府の脱炭素方針に加え、2021年6月東証のCGコード改定は大きな契機。
- それらに連動して、非上場会社を含めて、取引先からの脱炭素協力の要請が日に日に高まっています。

【世界の目標】



【「企業」の取り組み / 「投資家」の視点】

日本政府の
脱炭素方針

- ☛ 温暖化ガス排出量を2050年に実質ゼロ
- ☛ 2030年目標「2013年度比46%削減」

東証の
CGコード改定

- ☛ サステナビリティの取り組み等の整理を要請。
- ☛ プライム市場はTCFD等の気候変動対応が追加。

ESG投資の拡大

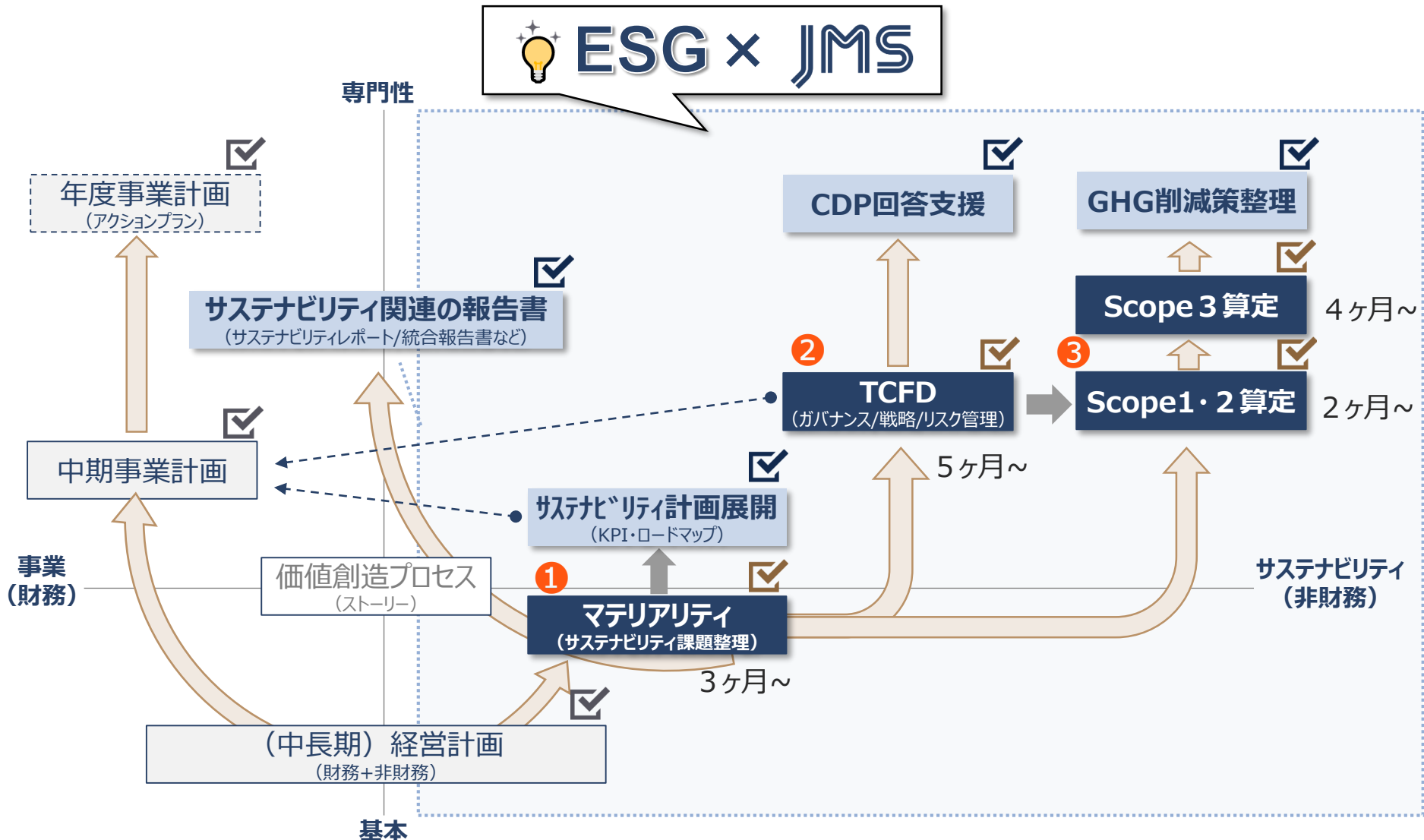
- ☛ ESG投資が急速に拡大
- ☛ CDP等の格付の影響の拡大

取引先からの脱炭素要請

- ☛ 非上場会社を含めて、CO2排出実績や削減目標が取引要件へ。

日本経営システムが提供するサステナビリティに関するコンサルティング

- サステナビリティ推進支援として、日本経営システムは以下のコンサルティングを提供しています。
- 一足飛びにフルスペック対応を図るのではなく、段階的に取組むスモールスタート・アプローチです。



(参考) 「①サステナビリティ課題整理 (マテリアリティ)」の概要

- ベンチマーク調査／外部公開情報、及び自社分析 (サステナビリティの棚卸) などの準備をします。
- サステナビリティ課題について、「ステークホルダーにとっての重要度」と「自社にとっての重要性」の観点からマッピングし、マテリアリティの特定 (及び サステナビリティ基本方針の策定) を行います。
 - ➡ 重点を絞った自社としてのサステナビリティへの取組みの加速に繋がります。

マテリアリティ

【ベンチマーク調査／外部公開情報】

ベンチマーク
外部
評価部

E:環境					S:社会					G:ガバナンス			
E-1	E-2	E-3	E-4	E-5	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	G-1	G-2	G-3	G-4
生物多様性	水の安否・確保	汚染と資源利用	気候変動	サイバーセキュリティ	人権と地域社会	労働基準	社会に対する責任	健康と安全	サイバーセキュリティ	マネジメント	リスク	コーポレートガバナンス	税の透明性
A社													
B社													
...													
自社													

G コーポレートガバナンス E 生物多様性 S 人権	S ダイバーシティ	E 気候変動対応 (カーボンニュートラル) S 人材育成 (人的資本の充実)
E 水資源・水使用の削減 G リスクマネジメント	S 地域社会貢献 S 研究開発 (知的財産の活用) G 情報開示	E 3R推進 S 働きがいのある職場環境の整備
	E 化学物質規制	S 健康と安全 S 製品サービスの安全

ステークホルダーの重要度

自社の事業にとっての重要度

※参加メンバーの中で、重要度の得点付けを行う方法もあります

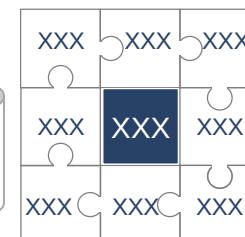
【自社分析】

Sample

項目	内容	評価	改善策
1. 環境	環境方針の策定・実施状況	評価	改善策
2. 社会	社会貢献活動の実施状況	評価	改善策
3. ガバナンス	コーポレートガバナンスの実施状況	評価	改善策
4. 環境	環境方針の策定・実施状況	評価	改善策
5. 社会	社会貢献活動の実施状況	評価	改善策
6. ガバナンス	コーポレートガバナンスの実施状況	評価	改善策
7. 環境	環境方針の策定・実施状況	評価	改善策
8. 社会	社会貢献活動の実施状況	評価	改善策
9. ガバナンス	コーポレートガバナンスの実施状況	評価	改善策
10. 環境	環境方針の策定・実施状況	評価	改善策
11. 社会	社会貢献活動の実施状況	評価	改善策
12. ガバナンス	コーポレートガバナンスの実施状況	評価	改善策

サステナビリティ基本方針

1. XXXXXXX
2. XXXXXXX
3. XXXXXXX



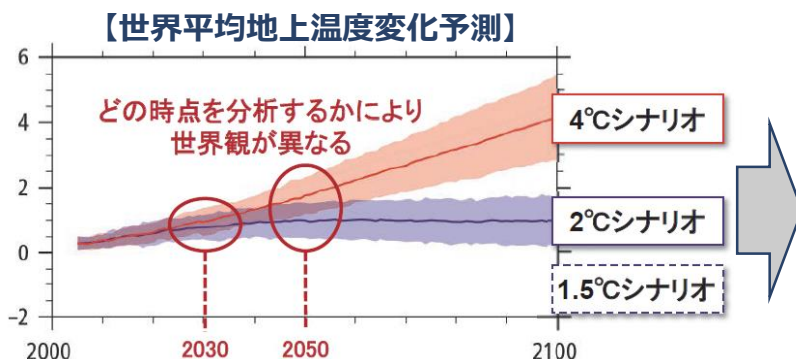
(参考) 「②TCFD (ライト)」の概要

- TCFDが推奨する開示要素のうち、特に「戦略（シナリオ分析）」に重点を置きます。「ガバナンス」「リスク管理」「指標と目標」は対応方針等を整理し、段階的に対応していく第一歩の対応を行います。
※ 気候変動対応に対する現在の取り組み状況に応じて、対象範囲を調整させていただきます。
- 日本経営システムからたたき台を提示させていただき、それに会社や事業の特徴を加味していきます。
➡ 会社や事業の特性を踏まえつつ、客観性を担保したTCFD分析とします。

TCFD の開示4要素

ガバナンス	戦略	リスク管理	指標と目標
気候変動リスクと機会に係る当該組織のガバナンスを開示する。	気候変動リスクと機会がもたらす当該組織の事業、戦略、財務計画への現在及び潜在的な影響を開示する。	気候変動リスクについて、当該組織がどのように識別、評価、及び管理しているかについて開示する。	気候変動リスクと機会を評価及び管理する際に用いる指標と目標について開示する。
マネジメント層はどのように監督しているのか？	リスク・機会の影響と対応をどう考えているか？	リスクに対してどのようにマネジメントしているか？	どのようなCO2排出量削減目標を掲げているか？

気温上昇について2℃以下シナリオを含む
複数のシナリオ分析



リスク・機会の整理 (洗い出し→絞り込み)

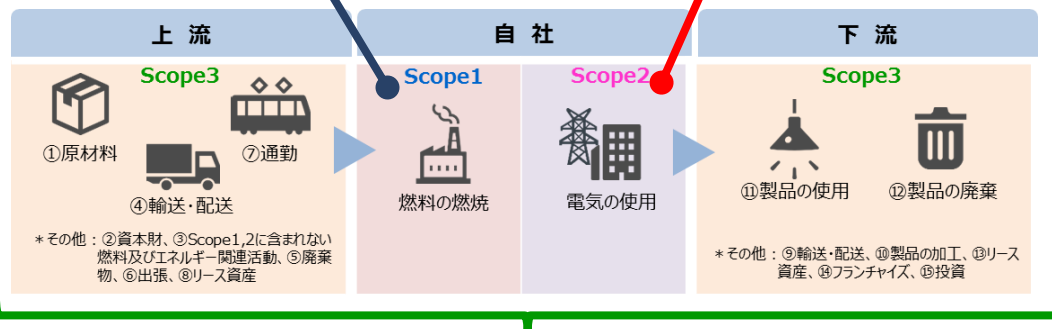
定性分析 及び 重点を絞った定量分析

会社としての対応策の立案

No.	気候変動影響の分類	バリューチェーンでの位置づけ	リスク・機会の整理	リスク	機会	CO2削減	削減目標	削減目標	削減目標	削減目標	削減目標
1	移行 (A)	調達	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)
2	移行 (A)	調達	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)
3	移行 (A)	調達	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)
4	移行 (A)	調達	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)
5	移行 (A)	調達	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)
6	移行 (A)	調達	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)
7	移行 (A)	調達	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)
8	移行 (A)	調達	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)
9	移行 (A)	調達	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)
10	移行 (A)	調達	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)
11	移行 (A)	調達	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)
12	移行 (A)	調達	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)	調達への影響 (B)

(参考) 「③Scope1~3算定」の概要

- Scope1/2算定から着手し、Scope3はサプライチェーンを理解した上で、算定可能な範囲から進めます。
- 継続性の観点から、会社主体で算出することがポイントです。

[illegible][illegible]

算定ロジック設定

[illegible]

算 定

[illegible]

活動量データ収集
&
排出量原単位収集

【Scope3】
Scope1、Scope2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）

- 日本経営システムが考えるサステナビリティ、特にESGにおけるポイントは3つです。
 - ➔ CGコード対応のみではなく、社内での共通認識の醸成や経営計画への反映の筋道を立てることで、ESGに関する動きを組織に根付かせていきます。

ESG

×

JMS
JAPAN
MANAGEMENT
SYSTEMS

① ESGの重要性と自社課題の社内浸透

- ✓ 単にCGコードに対応するというだけでなく、「なぜその取り組みが必か」の理解を共有化します。

② CGコードの要求への適切な対応を順次始める

- ✓ 一足飛びに高いレベルを目指すのではなく、会社に適した進め方を見極め、きちんと根付かせるようにアプローチします。

③ ESG課題を経営計画へ反映する筋道

- ✓ ESG課題を認識し、全社的な実践に向けて経営計画に反映させていく流れを醸成します。